

## 事例研究 No.08

テーマ：松下電送システム㈱「RAPIDのシュミレーション活用」＜開発＞

発表者：松下電送システム㈱ デザイン室 インタラクティブデザインチームリーダー 岸 八潮氏

概要：下記参照

- RAPIDについての説明
  - パネル操作シュミレーション用ソフトウェア 開発課題の早期発見の実現
  - 開発プロセス全体の効率化に寄与 開発効率の50%向上も可能（実際は20%程度）
  - 営業支援・顧客支援用ツールとしての活用も可 Webマニュアル・製品紹介ツールの作成にデータ流用
- 活用例1：デザイン部門における操作パネル設計シュミレーション
  - RAPID導入前は、出力紙で画面デザイン遷移を確認 RAPID導入後は、PC画面上で、画面遷移をシュミレーションしながら確認
  - テキストベースで画面遷移情報をプログラム（ソフト担当者） 外観図をデザインしBMPデータ化 RAPIDにてシュミレーション画面作成
  - RAPID活用によるデザイン二次検証 品質管理・取扱説明書制作担当部門
  - RAPID活用によるデザイン三次検証 営業部門
- 活用例2：ソフト開発時に必要な営業部門の検証結果の反映・効率化
- RAPID活用の成果
  - デザイン品質の向上
  - 開発効率の20%向上
  - デザイン事前検証によるデザイン精度の向上  
（例）RAPIDデータを海外販社(15カ国)に送付後、画面データを対象言語に翻訳
- RAPIDによる擬似パネル画面作成手順の紹介
  - BMPデータの貼り付け 各データをツリーに構成 アクション項目を追加  
擬似パネル画面の完成
- RAPIDのWeb Siteの紹介
  - 日本システムウェア(株)製ソフトウェア製品
- RAPID活用による擬似パネル画面の実演紹介
  - 多機能機Workio3200シリーズ用操作パネルの擬似パネル画面をモデルに
  - 海外販社における操作性確認用にも活用
  - 米国では、LIVEマニュアル（Web Siteで閲覧可）との連携も図られている  
\* LIVEマニュアルの実演紹介もあり
- 質疑応答
  - Q：RAPIDを活用して作成した擬似パネル等のデータを海外販社へ送付し、各種言語への翻訳依頼等を担当業務として行っているのはどの部署か？  
A：海外営業部門が窓口となって実施
  - Q：製品仕様書からRAPIDへのデータ展開を実施している部署は？  
A：デザイン部門

- Q : デザイン部門では、皆がRAPIDを活用しているのか？  
A : インタラクティブデザイン部の2～3名程度が活用している段階  
さらに、他部門への広がりも検討している段階
- Q : 様々なシュミレーションソフトの中から、RAPIDを選択した理由は？  
A : 他部門から譲り受けたので、試しに使ってみたのがきっかけ  
操作手順のログ機能もあり、デモや機能検証にも利用可
- Q : RAPIDを使いこなせるようになる迄にはどれ位かかるか？  
A : プログラムが好きなデザイナーならば半年位  
BMPデータの作成などを開発工程の中に組み込んで行けば、開発業務の一部として、RAPIDを活用した擬似パネルの作成も可能
- Q : 営業などの操作性を評価する人が擬似パネルを見る際に、RAPIDの知識は必要か？  
A : 特に必要なし
- Q : 開発効率が20%向上したとの事であるが、BMPデータの出力紙を利用する従前の手順との全体的な作業時間の違いはあるのか？  
A : 現在までの所、あまり差は認められていない。但し、この試みは現在進行形であるので、本当の成果は、これから判明してくると思われる
- Q : C言語コード展開により、RAPIDで作成したデータを開発部門におけるプログラム作成業務にも利用可能か？  
A : 利用可能である。但し、その為には追加の費用が必要となるので、必要度を検討の上、判断する事を薦める
- 高長氏（松下電器産業）によるRAPID活用効果の説明
    - ユーザビリティの検証が可能
    - 設計とコンカレントで作業が可能であるので、開発日程を短縮する事が可能
    - 営業部門に対する新製品説明用ツールとしても利用が可能

以上